

GWI Update 2017年9月20日号

GWI UPDATE

2017. 9. 20

GWI 国連代表報告

ジュネーブでの第36回人権理事会の会期において、GWI 国連代表 Amy Paunila は「人権理事会およびそのメカニズムの働きのすべてにジェンダー視点を導入するための年次討論」に出席した。テーマは「普遍的・定期的審査（UPR）と持続可能な開発のための2030アジェンダ（以下2030アジェンダ）～ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女兒をエンパワーする」だった。このパネルディスカッションで、定期的審査（UPR）方法が2030アジェンダ、特に目標5をいかに前進させることができるかが探られた。ヨルダン女性委員会事務局長 Salma Nims と国連人口基金マラウイ国事務所副代表の両名は、それぞれの国におけるUPR勧告のポジティブな影響を強調した。例えばヨルダンにおいては、強姦者のための法律の抜け穴308条項が2017年8月に撤廃された。マラウイでは、女性の性行為の権利、生殖の権利が人権として認識された。UPRがその第3サイクルに移るにあたり、人権規約が法的拘束力のあるフレームワークを提供するとすれば、（SDGsの）グローバル目標はその結実（とみなされる）と指摘された。UPRのメカニズムにより、目標の達成監視に対する説明責任が加わる。この点で市民社会は価値ある役割を担える。Amyの[報告書全文](#)。

GWI Update 2017年9月6日号

GWI、国際識字デーにあたり各国にデジタルジェンダーギャップの解消を奨励

女性や女兒をエンパワーする手段たる識字の促進に向けて国際社会を結集させる目的で設けられた、9月8日の国際識字デーをGWIは慶賀する。女兒教育の提唱者GWIにとって、2017年国際識字デーのテーマ「デジタル世界における識字」は心強い。そのテーマのもとユネスコは、「デジタル的結びつきが進む社会を渡るために人々にどのような識字技能が求められるかを検討し、また有効な識字政策を探ること」を目指している。

世界的な努力にもかかわらず、全般的なインターネットユーザのジェンダーギャップは2013年の11%から2016年は12%に拡大した。ユネスコによれば、推定されるギャップは後発開発途上国（LDC）が最も高い31%で、アフリカは23%である。世界のすべての地域において、インターネット使用割合は女性より男性の方が依然として高い。デジタル技術が急速に普及している世界において、デジタル識字から阻害された女性や女兒が、デジタル市民として競争するための知識、技能、能力の不足のために社会やビジネスから排除されないかとGWIは懸念している。この日にあたってのGWIのプレスリリースは[ここ](#)。